

第一声 田中候補の主張と政策の優位性が鮮明に 「オール与党」に支えられた井戸陣営 政策・実績語れず

知事選挙が告示されました。「生きる権利を大事に」(田中) / 「変化に的確な対応を」(井戸)、「誰もが安心な医療体制を」(田中) / 「元気な地方率先し作ろう」(井戸)、「高齢者や子どもに温かい県政を」(田中) / 「地方分権、先頭に立って進める」(井戸)、「中小企業と地域応援」(田中) / 「関西広域連合目指す」(井戸)など新聞各紙の見出しに見られるように、告示直後からの論戦で、県民のくらしと福祉を第一にした田中耕太郎候補の主張と政策的優位性はすでに鮮明になっています。

知事の第一声演説にみる

医療費負担増を「過大部分見直し」 子ども医療費はごまかし

18日付神戸新聞「医療負担増めぐり攻防」の記事で、田中候補が「福祉の切捨て」と厳しく批判しているのに対し、井戸氏は「助成の縮減というよりは、過大だった部分を見直した」とのべてきたと報じられています。県民の命綱を「過大」という冷たい姿勢が現れています。

井戸氏は、第一声ではこの問題に直接触れず、「行革プランのもとに～見直しを続ける」ことでの医療については「義務教育までの子ども医療。これを制度化して支援する」とのべましたが、自己負担の軽減や、具体的な対象年齢の延長には触れていません。

田中候補・医療費助成削減の行革プランは白紙撤回。子どもの医療費を中学校卒業まで無料に、子育て応援日本一の県に。

「新型インフルは影も形もなくなった」

18日にも、西宮と尼崎で4人の感染者が確認されているのに、「新型インフルエンザは影も形も現在はなくなりました」と失言。

田中候補・行革で減らした保健所を拡充し、医療・保健体制を充実。

地方分権いうが地方自治破壊の道州制に道

「変えよう県政」を意識してか、井戸氏は「地方分権で兵庫から日本を変えよう」とのべましたが、中身は「関西広域連合をつくる」。関西広域連合は、住民サービスにかかる財政支出削減をねらった「究極の構造改革」(日本経団連)である道州制へつなげるため、関西財界が設置を強く求めているものです。

田中候補・道州制には反対。国いいなりをやめ、憲法の地方自治の精神をいかし住民の福祉増進という本来の役割を果たす。

現知事・国いいなり・医療介護の姿勢に、出陣式で社民党から苦言も

井戸氏出陣式で、社民党・今西正行代表は、「医療も介護もいろんな意味で国民に不安がある」中央政治に対して県民の声をもの申す3期目の県政であってほしい」と苦言。当の井戸知事は、「後期高齢者医療制度の早期定着をはかる」とか、介護保険料の独自軽減は「必要ない」といっていますが・・・。

財界代表が絶賛する井戸県政

応援演説にたった水越浩士日本商工連盟副会長(神戸製鋼前会長)は、「県民の生活と福祉の向上というものはあげて産業振興にかかっている」とのべ、井戸氏を「産業振興にまい進してこられた」、「企業誘致で全国1位2位の成果を兵庫県はあげている」と絶賛しました。



こくた衆院議員の応援を受ける田中耕太郎候補(6/20)

200万人オレンジ対話で、田中支持を広げよう

「憲法どおりの兵庫にむけて！」

田中耕太郎サポーターズニュース(号外)

2009年6月22日 憲法県政の会(部内資料) 電話 078・362・1805 ファックス 078・362・1814